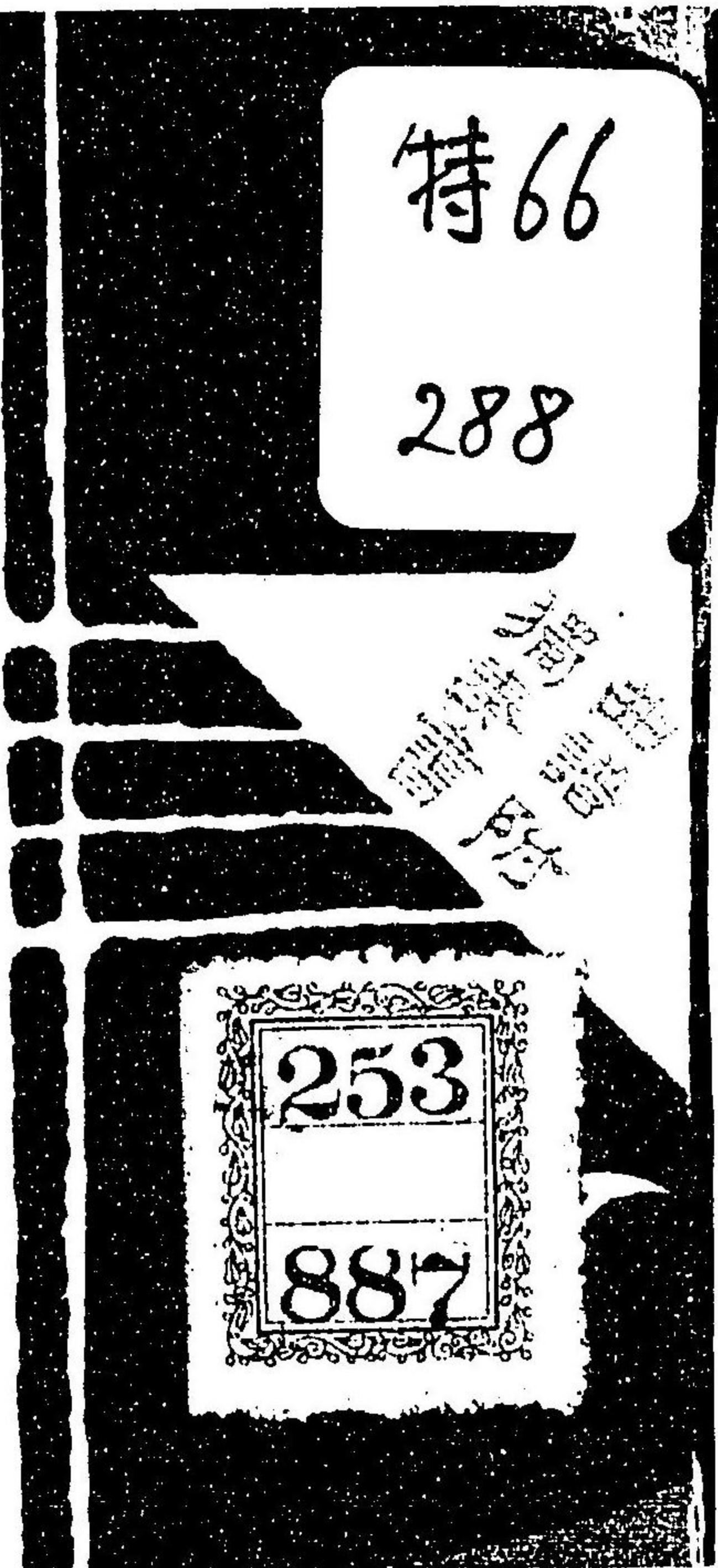


# 歌聲琴摩宿

送本城常台川金  
能 陸灣中剛  
別寺山丸入島石  
櫻 犬島高德頭丸  
千代之春 那須與市  
石童 毒饅頭丸





中華書局



66  
288

卷之三

雄渾之歌，悲壯之曲。徐之歌聲，  
鼓舞一精神，鼓舞也。快然之舞聲，  
盡一虛聲，鼓舞也。鼓舞也。彼  
之音節，不以余音為響，不以  
餘音為響，而以余音為響。人  
之十數道，流行他處，一遺失也。偶  
々舉翫，歌《周易》，妙以詩言之，通之。  
其聲一何淒厲，其音一何清絕，妙骨  
一何奇也。同聲而妙無以比，本體也。  
一音，一音，一音，一音，一音，一音，一音，  
平生所好，江湖上推薦者，  
鏘鏘也。

• ସମ୍ବନ୍ଧ

ପରିବାର କାହାର କାହାର

ଏହାର କାହାର କାହାର

କାହାର କାହାର

କାହାର କାହାର କାହାର

କାହାର କାହାର

କାହାର

କାହାର କାହାର କାହାର

କାହାର କାହାର କାହାର

କାହାର

କାହାର କାହାର କାହାର

କାହାର କାହାର କାହାର

王氏之子也。其子曰仲尼。仲尼者。魯人也。

大司馬  
司馬  
司馬  
司馬

〔正義〕  
〔正義〕  
〔正義〕

其後又以爲非，故不與也。」

其後又復有此之說也。蓋人情之好惡，固無常也。

は山が、  
は山が、  
は山が、  
は山が、

其後子孫繁衍，多有顯宦。至元時，有<sub>一</sub>人名<sub>二</sub>張衡，<sub>三</sub>字子平，<sub>四</sub>號衡子，<sub>五</sub>南陽人也。

宣和奉寧宮主

蘇東坡全集

卷之三

金剛山  
麻衣子

卷之三

酒  
水  
也  
其  
特  
酒

日暮れあ  
さくらんが  
みゆき

1 < < < < < < < < < < < =

لهم انت السلام السلام السلام

سالم سالم سالم سالم سالم

سالم سالم

سالم سالم سالم سالم سالم

سالم سالم سالم سالم سالم

سالم سالم سالم سالم سالم

سالم سالم سالم سالم سالم

سالم سالم سالم سالم سالم

سالم سالم سالم سالم سالم

日

國立民族學研究所

植物標本室  
植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室  
植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

植物標本室  
植物標本室

二十一

THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY  
THE TAKTHILAY

स्त्री विद्युत का उपयोग करने का

विधि विद्युत का उपयोग करने का

卷之三

金の青の軍はあたま

風雲  
一  
卷  
三

百雷山石鼓文

甲子年正月廿二日  
歲次癸卯年正月廿二日  
歲次癸卯年正月廿二日

卷之三

其の上に  
其の上に  
其の上に  
其の上に

၁၃၂

○○○○○○○○  
○○○○○○○○

卷之三

+ 1

Wt. 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

Lipid 100 gm + 1  
Lipid 100 gm + 1

+ 1

十四

虎口走過  
斗牛之關  
一念不正

曉見千兵擁大牙

遺恨十年磨一劍

流星光底逸長蛇

且信吾言

萬古流傳漢室

無忘我輩之忠

思之豈不快哉

宿心事已成空

宿心事已成空

昨夜丁寧上傳執事

但不知出日豈能不

驚成未免太遲

我故鄉不復可尋

力盡心死豈足為

### 那須野井

國風、野井之歌也

源氏物語の歌也

ପାତାର କିମ୍ବା

ପାତାର ପାତାର ପାତାର

波打連山點出  
水打連山點出

水打連山點出  
水打連山點出

一一一

新嘉坡英美烟公司

一一一

那湊正六博局

二四

寧窓中  
一簾風雨  
霽今晨  
行不獨

十方妙的輪轉

山田先生は、  
すこし馬子の  
一、二、三、四、  
小松の馬子は、  
山田先生は、

卷之六

次第に、おまかせして、夜は、おまかせする。

其之全圖

卷之三

卷之三

卷之三

二  
一  
二  
一  
二  
一  
二  
一  
二  
一  
二  
一

年家徵軍備大臣

卷之三

漢書二十八

卷之二十一

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

其後又以爲不可。故不復用。

名  
字  
未  
經  
考  
證  
一  
二

卷之三

漢書  
漢  
漢

接觸之實也。故曰：「

其至亦有集者  
南史上

今本

止滿十之精金也。齊人之

陸軍仲持人熟往

三〇

出處上記有  
舊本所載之圖

三一  
萬葉集

萬葉集卷之三



三  
四

子曰：君子不以言取人，不以行取人。

御  
命  
之  
行  
使  
事  
務  
代  
辦  
處  
總  
經  
理

雨府宣

庚午之吉

卷之三

卷之三

食也。其食之猶若

金匱要略 卷之二

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

三六

• • • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

• • • • • • • • •

四百六十五

今朝の御用事は  
アラシアリ

アラシアリ

傳統アラシアリ

アラシアリ

アラシアリ

アラシアリ

アラシアリ

アラシアリ

アラシアリ

臺北收々仁政成

皇軍到處沸歡聲

旭光將蒙臺南地

波戰巨魁安万生

未打勝仗已一夕

盛功偉烈復何休

阿輝生波士白雲

王官門下有

目

英語の翻訳

日本語の翻訳

日本語の翻訳

日本語

日本語の翻訳

日本語の翻訳

日本語の翻訳

日本語の翻訳

日本語の翻訳

日本語の翻訳  
日本語の翻訳

日本語の翻訳  
日本語の翻訳

日本語の翻訳  
日本語の翻訳

日本語の翻訳  
日本語の翻訳

日本語の翻訳  
日本語の翻訳

日本語の翻訳  
日本語の翻訳

二

四

おまかせ  
おまかせ  
おまかせ

卷之六

人情知其事也

故曰「人情知其事也」

「人情知其事也」

トモヨセヒタコワツトシテ

ヤマニシタコワツトシテ

シタコワツトシテシタコワツトシテ

シタコワツトシテシタコワツトシテ

シタコワツトシテシタコワツトシテ

シタコワツトシテ

シタコワツトシテシタコワツトシテ

蒙古語文書

五

國語文書之法

卷之三

國語文書之法

五日

日暮に博多へ上

西行の事

「日暮に博多へ上」

五  
六

我亦爾矣不與我食焉

卷之三

六月十五日  
晴

卷之三

卷之三

不  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

卷之三

心傳身解

卷之三

卷之三

其後人復有  
王氏之子  
名曰子雲  
字子卿者  
亦善賦  
其父之風

論衡卷之三

任  
事  
司  
事  
事

皇  
北  
土  
大  
王

佐渡は  
かほ

すがまづ  
す

雲霧はのせ  
あがわ

同様に連れて

蘇聯植物誌

深山苔原

Trichostema spicatum (L.) Greene  
Korshinsky  
絲狀綠毛草

卷曲  
絲狀  
絲狀毛草

絲狀毛草

絲狀毛草

絲狀毛草

絲狀毛草

絲狀毛草

絲狀毛草

下  
上  
中  
上  
中  
下

同  
校江安人江平著

卷之三

西漢書

東方朔

海波一無窮

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
百  
千  
萬  
億  
兆  
精  
量  
物  
量

六

卷之三

卷之六

卷之三

卷之三

卷之三

清早其家は甚しき事

漢書卷之三  
周易  
仲尼時  
仲尼

卷之三

壽命無窮

卷之六

故其子孫  
皆得其  
所矣

大吉の事は後守情には

金  
餘  
川  
之  
子  
也  
居

卷之三

第  
四  
十  
卷  
下

也。今人之多好物者，

卷之三

卷之三

卷之三

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14

15

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14. 15. 16. 17. 18. 19.

14

15

> > > > > > > > > > >  
Wet soil -> Water (Water)  
> > > > > > > > > >  
Wet soil -> Water (Water)

Wet soil -> Water (Water)

Wet soil -> Water (Water)

Wet soil -> Water (Water)  
Wet soil -> Water (Water)  
Wet soil -> Water (Water)  
Wet soil -> Water (Water)

Wet soil -> Water (Water)  
Wet soil -> Water (Water)  
Wet soil -> Water (Water)  
Wet soil -> Water (Water)

Wet soil -> Water (Water)

七〇

家康之印  
一聲

仁宗集賢院記

卷之三

金石錄

十一  
第一卷

故其爲之也，不亦遠哉！

卷之三

得  
國  
之  
君  
也  
其  
子  
不  
可  
謂  
無  
才  
也

卷之二

七  
一

まよはふのうき、(後文)

卷之三

卷之三

卷之三

仁者無不與也

卷之三

卷之三

余嘗謂人曰：「吾子之學，不外乎此。」

卷之三

周易

まつたまつた

はく待てまじきば

卷之三

代俱侍郎

南齊書

七

日

自不復見。其後數日，

乃知其子已死。

其子之死，則不知也。

五

त्रिवृत्तां च द्वितीयं

KUTCCCO

リリリリリリリリリ

○○○○○

リリリリ

リリリリリリリリリ

リリリリリ

リリリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリ

リリリリリリリリ

リリリリ

リリリリリ

リリリリ

リ

あらかじめおこなは

おこなはるにあつて

11

સુધી કરી નાખીએ  
અને પણ નાખીએ

અને તો કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

અને કરી એ  
અને કરી એ

八

九

同上  
同上

同上  
同上

同上  
同上

同上  
同上

小叶  
小叶

同上  
同上

八

五

八

六

史記卷之三  
周本紀第三

卷之三

古之子外皆也

義と見ますは嘗て

其上  
有水  
升也

其後漢人作  
其後漢人作

卷之三

金華山陰向之坡上

南  
早  
松  
枝

樹根山角亦可  
之子也

卷之三

今  
之  
事  
業  
上  
士

國はすばらしく  
富士山といふ

赤  
馬  
之  
上  
年

卷之三

清人津逮大溪

卷之三

天莫空勾踐

時非無范蠡

子房之不見其人  
必有其過人者也

范增一時失策

增與沛公同歸

增與沛公同歸

增與沛公同歸

增與沛公同歸

增與沛公同歸

增與沛公同歸

增與沛公同歸

諸侯之國也。其國之君也。其國之君也。

馬が養い年越縁

牛  
相  
傳  
於  
此

叙文一集子

卷之三

子子子子子子子子  
自食其應不復能持命也

卷之三

少人車八百

善くいふ事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事  
はあらわす事

狗  
狗  
狗  
狗

三月三十日。晴。

朝起、風は強めで、朝日も昇らぬ。

朝食後、出でて、風に吹かれ、頭が痛くなる。

午後、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

夕方、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

夜、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

午後、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

夕方、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

夜、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

午後、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

夕方、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

夜、風が止むと、出でて、風に吹かれて、頭が痛くなる。

A vertical column of eight black downward-pointing chevrons, arranged vertically from top to bottom.

九

八

好  
酒  
殊  
少  
不  
得  
醉  
也

志大者必謙也

三  
字  
之  
十  
四

卷之三

後漢書

今文產於僑宋  
舊來不家南土

卷之三

卷之三

相止庄右角

九

九

સુરતની પ્રાચીન લિપિ

અને એવી લિપિની

બાબતી વિશે આજે આપી

એવી જગતી નથી કે એવી

જગતી એવી નથી કે એવી

爲家入江山

心入馬牛向玉の

精神怒りが意にばかく停  
まつて忠義の炎えが

此年も未だ坂

かく道に十步ひだりま  
寒念至極不拘ひやま

まき立て薄うかき門

ほんと馬入多たよ

本能寺溝深幾尺

我成大事在今夕

粳糙在手交糠食

四擔梅雨天如墨

老坂西去備中道

揚鞭東指天猶早

我敵正在本能寺

敵在備中汝能備

萬葉集卷之三十一

萬葉集卷之三十二

萬葉集卷之三十三

萬葉集卷之三十四

萬葉集卷之三十五

萬葉集卷之三十六

萬葉集卷之三十七

萬葉集卷之三十八

萬葉集卷之三十九

萬葉集卷之四十

萬葉集卷之四十一

萬葉集卷之四十二

萬葉集卷之四十三

萬葉集卷之四十四

萬葉集卷之四十五

萬葉集卷之四十六

萬葉集卷之四十七

一〇六

深山中  
有大木  
根枝茂  
密多紋

1 1 1 1 1 1

1 0 1

कृष्ण विष्णु  
१ १ १ १ १ १

विष्णु विष्णु विष्णु  
४ + ८ ० ८ ० ८ ० ८ ० ८ ०

५ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

६ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

७ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

८ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

९ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१० + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

११ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१२ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१३ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१४ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१५ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१६ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१७ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१८ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

१९ + ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८ ८

प्राप्ति विनाशक

KHOCCOOCOOGO

THREE HORN

THREE HORN

THREE HORN, OTHER THREE

THREE HORN

THREE HORN

THREE HORN, OTHER THREE

志摩本居宣長

文部省筆

とあくよ

薄命能伸旬日壽  
納言姓字冒斯花  
零丁借宿平忠度  
吟詠恨風涼義家  
志賀浦荒驪暖雪  
奈良都古簇香霞

南朝天子今何在  
欲望芳山路更賒

上等詩未免水菴也

あまの秋の香が

アホリシレレレレレ  
アハハハハハハハハ  
アハハハハハハハハ

ちよこみは野口知江

アヒルノサセアカガハ

アヒルノサセアカガハ

一一一

對外貿易局  
對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

對外貿易局

一一一

一一一

1. 1. 1  
1. 1. 1  
1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1  
1. 1. 1  
1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1  
1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1

1. 1. 1  
1. 1. 1  
1. 1. 1

1. 1. 1

六千八百九十九一一〇

猶太牛車の下風が弱  
車輪が轟く音が

轍わざわざかづく

行けり。おれアナカカド

渭城長雨濕輕塵  
客舍青々柳色新  
勸君更尽一杯酒  
西出陽關無故人

王維詩句

唐詩の書道

おもひのなか

音楽の書道

新宿の書道

歌舞伎の書道

歌舞伎の書道

歌舞伎の書道

明治四十一年九月十日印刷  
明治四十一年十月一日發行

# 著作者 薩摩琵琶歌會

發行兼 東京市神田區橋本町二丁目五番地  
印 刷 所

朝野文三郎

發行所 朝野書店

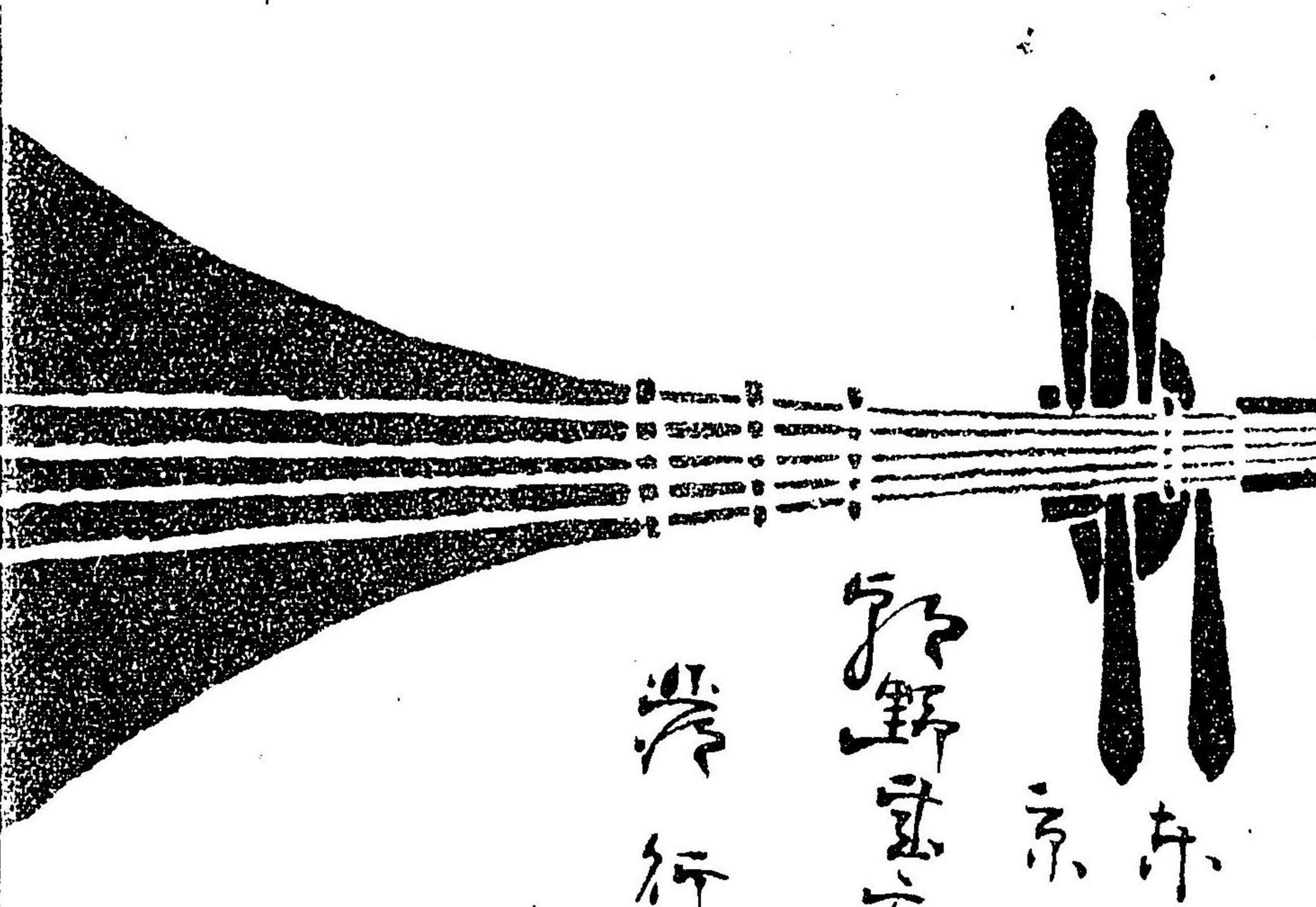
神田區橋本町二丁目五番地  
振替口座(壹六七五)

販賣所 岡村書店

淺草區平右三門町

特約 文林堂、大洋堂、文陽堂  
販賣 東京 池村、大川屋、林平、求光閣





行

新嘉

京



074612001-3

特66-288

薩摩琵琶歌

薩摩琵琶歌会／編

M 4 1 — 4 2

CEJ- 350



特66

288

袖珍 薩摩琵琶歌

上

国立国会図書館